

質の高い情報活用能力の育成を目指して

富山県高等学校教育研究会
情報部会長 筒井 慎一

高等学校学習指導要領における普通教科「情報」の目標は「情報及び情報技術を活用するための知識と技術の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる」とあります。また、専門教科「情報」の目標は「情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」とあります。

多くの大学でも、学術活動のためにコンピュータやインターネットの活用に関する基本技術・概念を授業の中心に置く「アカデミックリテラシー」という講座の導入や、全学共通の情報教育を行って情報活用能力の高度化や類別化などを行う「情報フルーエンシー」という観点の強調がなされるなど、あらゆる分野で学術活動における情報活用がますます推進されるものと思われます。また、多くの企業においても、それがどのような業種であれ、様々な分野におけるIT化のさらなる発展・進化が、全国的な裾野の広がりを背景として、日々促進されていることもまた疑問の余地がありません。

しかし、高等学校における情報教育は必ずしも楽観できない状況です。それは、まず、この教科が開設されて以来まだ数年しか経過していないということ、さらには、生徒の学習到達度は各学校の置かれている様々な環境に左右されがちであるということ、加えて、入学してくる生徒の多様な実態も学習活動に大きく影響を与えること、などの理由があるからです。逆に言えば、然るべく環境を整え、生徒の実態に即した適切な指導を行えば、飛躍的な前進も見込まれるということだろうとも思われます。

我々情報部会では、ナショナルミニマムとしての教科「情報」の到達度を深く認識し、教科「情報」の修得が意味する内容を、今まで以上にしっかりと確認する必要があります。欧米・インド・中国・韓国などの情報技術面での目覚ましい発展を見聞きするにつけ、情報後進国に転落しかねない日本の状況を新しい世代に回復してもらうためにも、今なすべき喫緊の課題を協議し、解決すべきです。そのためには、まず情報部会一丸となって、他教科の素材も取り込み、本県高校生の実態に応じた教科「情報」としての多様な教材開発が焦眉の急と思われます。同時に、技術・理解の深化に応じた、受け手としての判断力や発する側の責任感及び著作権の尊重という観点を重視した、情報リテラシーにおける世界共通倫理観の育成も肝要です。生徒に今後の充実した日々を保証するために、我々は、質の高い情報活用能力の育成を目指して、努力を継続すべきであると思います。

終わりに、研究発表等において快くご協力をいただいた先生方や、日頃からお世話になっている富山県教育委員会及び富山県総合教育センター科学情報部に感謝申し上げ、ご挨拶といたします。